

# 神岡鉱山地下埋設神社とは？ - 「それ」に関する五つの証言

神岡鉱山地下埋設神社復元調査委員会

- ・ 何故そこにあったのか？
- ・ いつ、それは生まれたのか？
- ・ そこでは何が祀られていたのか？

- その1 研究員A君の話
- その2 工事関係者の話
- その3 神道研究家の話
- その4 歴史小説家の話
- その5 富岡製作所の話

---

## その1 T大学「宇宙線研究所」神岡総合研究棟 研究員A君の話 —施設内の噂

えっ、本当なんですか？

学生同士の間では、怪談話とか都市伝説とか、噂になったことは、あるんだけど…。本当なんですか？

実際、地下の施設にいと、時々だけど、何処かからブーン、ブーンとか、チャリンとか、鈴の音のよ  
うなものも聞こえることがあるんです。

発電装置か、何かの機械装置から出てるんだと思ってました…。でもそれだと、突然全く聞こえなくなる  
というのは、考えてみたら変です。変ですよねぇ…。

「カミオカンデ」という装置は、簡単に言えば宇宙からの素粒子を観察する装置です。素粒子というのは一  
種のエネルギー。宇宙からのエネルギーが、「それ」の力を増幅させているとかあるかも…。

あっ、すみません。主任が呼んでいるので…。

---

## その2 カミオカンデ工事関係者の話 —安全祈願？

祠ですかぁ？ そりゃ知ってますよ。そりゃあ、びっくりですよ。まさか工事の前に、地下にあんな…。  
壊す訳にもいかないし、教育委員会や文化庁などに報告するなんて。とんでもない。工事は中断するしね。

こちらだってさぁ。「国家プロジェクト」だからね。地面深くにあるしさぁ。安全祈願とか何とか、理屈を  
つけて祀ったんよ。

怨霊を集める神社だって？ そんなことを知ってたら、工事なんか放り出して、サッサと逃げますよ。

---

### その3 神道研究家K氏の話 —神岡のご神体と「大元宮」

えっ、大元宮とどちらが古いですか？ それは、神岡鉱山のご神体の方が古いです。地名から考えてもそうです。

大元宮のある「神楽岡」は「神岡」から来ています。間に「楽、楽しい」という文字を挟むことによって、神の力を少し弱めているのです。神岡鉱山は日本海に近い…。朝鮮半島や中国から渡来した帰化人達が発掘を始めたというのは、非常に納得のできる説です。金・銀・亜鉛・鉛は非常に貴重な鉱物なので、それらが産出される地域を「神岡」と名付けたのでしょう。

帰化人達と共にやってきた朝鮮半島経由の陰陽五行説や道教、儒教の影響もあり、他に類を見ない非常に特殊な形の構築物が設けられたと推測できます。室町時代に、それを伝え聞いた吉田兼俱が建立したのが大元宮ということです。「神楽岡」という地名は、元の「神岡」に敬意を表するかたちで、その後につけられたものですね。

それ以前の、平安時代の後期では神岡は別の意味を持っていました。一つの神社が、時代によって異なった意味を帯びるとするのは、とてもよくあることです。「日本古来の」とか、「伝統の」とかいう言葉には気をつけたほうがよろしいかと思います。

「鬼門」というのはご存じですか？ 平安京の内裏から北東の方向、所謂「丑寅」ですね。その方向に、比叡山「延暦寺」が建立されています。実はそれだけではないのです。内裏から延暦寺に至るその線を、ずっと延長してみてください。神岡鉱山に達するのです。要するに、内裏を遠くから守護する怨霊封事の施設としての役割を担わされていた、ということです。

「裏鬼門」ですか？ 裏鬼門の方角には、長岡京市に乙訓寺があるのですが、こちらの方向を延長していくと、淡路島や讃岐となります。怨霊となる崇徳上皇や早良親王が流された地域です。とにかくこの時代には、神岡のご神体は日本各地の怨霊を鎮める役割を果たしたということです。

一方、神楽岡の大元宮は、奈良時代の延喜式の神々を祀ることで、怨霊となった神々を意図的に避けています。いわゆる表の顔、「神楽」の顔ですね。山の上に怨霊を持ってくる訳にはいかないでしょう？ 怨霊は地下深くに納めるのがよろしい、ということですね。

---

### その4 歴史小説家 Y氏の話 —神社の変遷と埋設神社

国が神社の整理や統合…、ということは、そこで祀る神の整理や整頓でもあるのですが、歴史上これまでに主なもので三回ありました。

一回目は飛鳥時代。天武天皇の治世の時です。天照大神を天皇の祖として位置づけ、それぞれの地方で行われていた祭祀を国家の祭祀として保護する、それと同時に、伊勢神宮を中心とする国家の神社体系の中に取り込みます。そう、まるで公的機関のような名称を持つ現在の神社本庁の考え方と同じですね。

二回目は、平安時代中期に、律令の施行細則として定められた法令集「延喜式」によるものです。全50巻の内、9巻と10巻は「延喜式神名帳」と呼ばれ、全国の神社の一覧表が掲載されています。そこに記載されている2,861社の神社、3,132座の神々だけが、祈年祭で神祇官あるいは国司から奉幣を受けとることができるのです。国家鎮護のために選ばれた神々なのです。逆に言えば、選ばれなかった神々も多く居た、ということです。村々で祀られていた、その土地固有の産土神、また早良親王や井上内親王などの怨霊も、そこには含まれていません。

応仁の乱の後、律令制度が崩壊していく中で、日本各地の神社に神職の許可を与えると共に、こともあろうに諸々の神々に位を授けるかたちで、所謂「神使い」として現れたのが吉田神道です。「神道裁許状」や「宗源宣旨」です。

創始者としての吉田兼俱はとても興味深い人物です。様々な偽書を捏造し、それを元に朝廷や幕府、神社を動かしていくところは、神道家というより扇動者やマネージャーの顔を持っています。何よりも、一つの思想から大元宮という装置を生み出すというのは、ある種のメディア・アーティストとも言えるかもしれません。

神岡の地下埋設神社の方が先だ、という研究者もおられますが、どうでしょうか？ 作り話としては面白いですが、兼俱の一ファンとしては賛同しかねます。

さて、三回目が明治時代ということになります。明治元年の神仏分離令と共に、村々で祀られていた神社が続々と統合、撤廃され、それとは裏腹に、国家主導による新たな巨大な神社が創建されていきます。みなさんもよくご存じの神社…神戸にある楠木正成を祀る湊川神社（明治元年）、靖国神社（明治12年）、檀原神宮（明治23年）、平安神宮（明治28年）、明治神宮（大正9年）など数多くあります。

この時には、神岡鉦山の地下の神社も撤廃を余儀なくされたようです。公的には「撤廃し埋設された」などと書かれていますしかし、実際は密かに存続していたという説もあります。隠れキリシタンならぬ、隠れ〇〇ですね。そもそも怨霊を祀っていたとされる神社ですから、村人のみならず、役人とても軽々しく手を触れる訳にはいきません。口裏を合わせて撤廃したことにするというのは、大いにあり得ることです。

明治12年、東京招魂社が改称され靖国神社が生まれます。靖国神社には、戊辰戦争の戦没者に加えて、西南戦争以降、日本の対外戦争での戦死者の霊246万6,500余柱が合祀されていると言われていています。

しかし、考えてみてください。祀られているのは「英霊」です。国家から英雄とされた戦死者なのです。実際にそれらの人々が内に抱えていた後悔や悔しさ、怒りといったものは、どこに行けばいいのでしょうか？ 祀られているのは、綺麗に拭われ美化された「霊の部分」なのです。数多くの霊に含まれていたはずの怨念は行き場を失うでしょう。彷徨い始めるのです。そして、神岡鉦山の地下奥深くに、彼らは見つけたのです。

---

## その5 復元展示制作設計、富岡製作所専務の話 —復元について

お話をいただいた時には、驚きました。復元するにしても資料がほとんどない状態、現場を見ることもできない。見つかった図面といっても切れ端のようなものです。ほとんど判読はできないし、どうやって復元するのか最初は見当もつきませんでした。調査委員会の人たちの熱意に動かされたというか、話を聞く内に依頼を受ける気になってきたのです。

こんなことも言っておられました。

この復元展示は埋設神社への世間の関心を集めること、来場者の想像力を刺激することが目的で、最初から復元自体の正確性については期待していないと。有名な神道研究家の話だそうです、そもそも神社自体が

長い歴史の中で様々な変化を強いられてきていて、形だけをそのまま復元しても、あまり意味はない、むしろ、現代の形で再生した神社の姿を見せることの方が重要なんだそうです。復元展示が調査報告全体の一部分であること。そして常設の展示ではなく、ある一定期間の間、ギャラリーを借りて展示するというのも聞いて、とても気が楽になりました。

そうとは言っても、何か元になる資料は必要です。その構造が非常に似ているということで、参考にしたのが吉田神社の大元宮です。けれど、八角の建物の中心部には誰も入ることができないし、覗くこともできないのです。ただ昭和の改修の際に作成されたものだと思うのですが、平面図と立面図が手に入ったので、それを元に、何とか制作することができたのです。

中央の回転する輪。私たちは「法輪」と勝手に呼んでいましたが、元々は回転していなかったんでしょう。誰かが回していたとか、そんなこともあったのかもしれませんが…。

えっ、私たちの会社の名前？ そうです、神岡でなく「富岡」です。その話をすると長くなるのですが、よろしいですか？

私はもともと福島県の富岡町で、原発関連の下請けを行っていたんです。それが、あの2011年の事故のせいで、原発関連の仕事どころか帰還困難に指定されるし…、たまったもんじゃないですよ！ 丁度、神岡にある企業が水力発電を手がけていて、まあ、発電関連だと言うことで、この神岡に移動してきたのです。事故の記憶を残すというか、神岡とも何がしか繋がりがあのような気がして、名前はそのままにしていたのです。

今回の復元展示の制作でも、そのことのせいか、日本各地にある原発自体が、一種の神であるように思えてきたのです。昔から「物の怪」とか「付喪神」とか言うじゃないですか？ 現代における神社ということなら、やはりあれも祀る必要があるんじゃないでしょうか？ 崩れ落ちたものや、廃炉されたものも含め、60基の神々を祀ることは、調査委員会の方々も、快く了解してくださいました。もしかしたら、そんなことも見越して私たちに依頼されたのかもしれませんが…。